

東南アジア地域研究入門〈全3巻〉の特長

- 日本だけでなく海外の研究も含めた東南アジアの先行研究を網羅！
- 国境や学問領域を超えた地域研究の視座は、現地法人を持つ企業やメディアの関係者にも必須！
- 長らく刊行されてこなかった東南アジア地域研究の新標準テキストを満を持して発刊！

◎お申込み方法◎

書店でのお申込みの場合

▼
下のお申込書にご記入の上、お近くの書店にお持ちください。

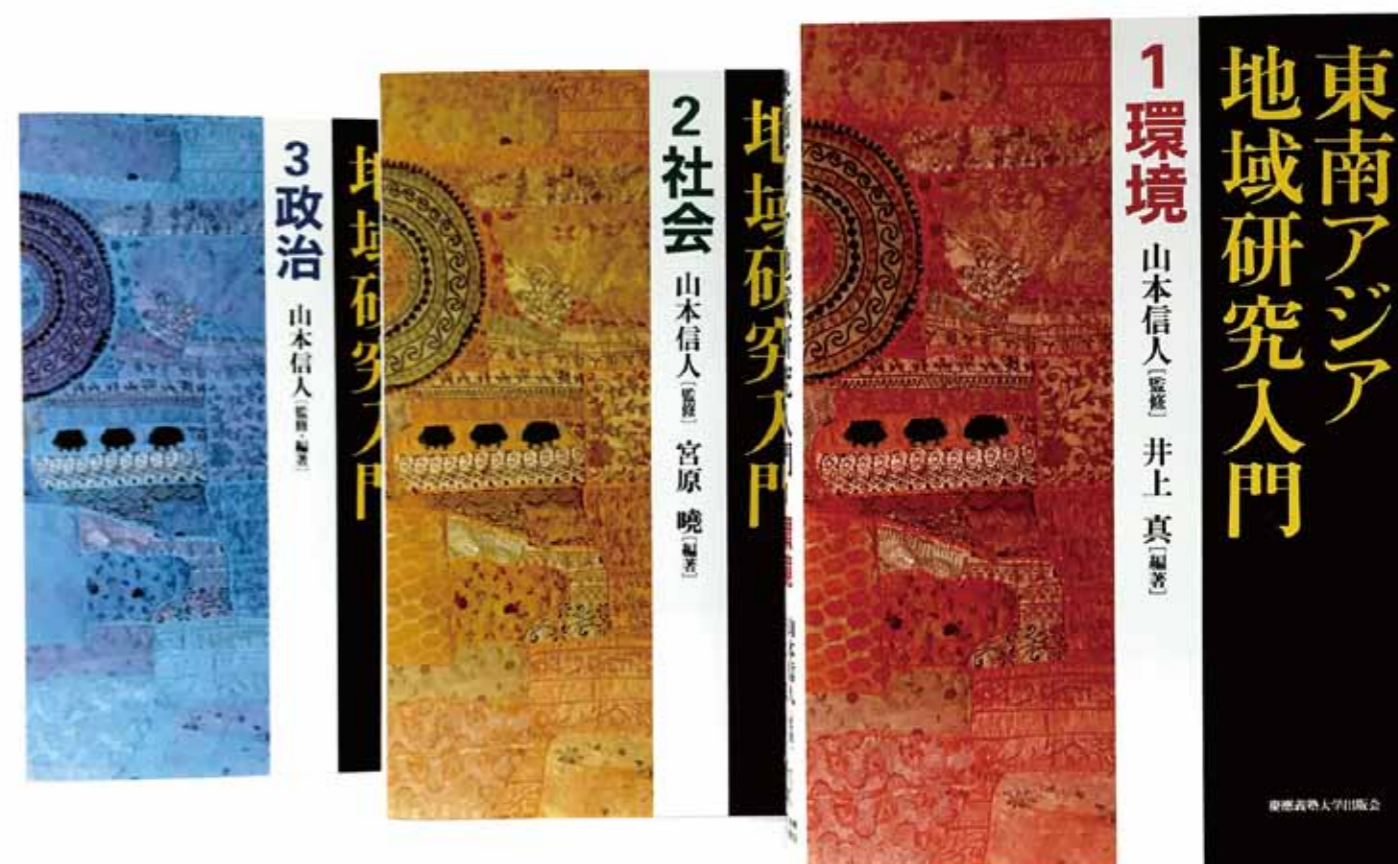
〈お近くに書店がない場合〉

下記の弊社営業部に直接お申込みください。

また、弊社ホームページ上でもお申込みいただけます。

<http://www.keio-up.co.jp/>

東南アジア 地域研究入門〈全3巻〉



東南アジア地域研究入門 〈全3巻〉

お申込書	書店名 [この欄は書店が使用します。]	全3巻セット	本体価格10,800円 []セット
		1 環境 978-4-7664-2394-5	本体価格3,600円 []冊
		2 社会 978-4-7664-2395-2	本体価格3,600円 []冊
		3 政治 978-4-7664-2396-9	本体価格3,600円 []冊
		お名前	
	ご住所		
	お電話		
	E-mailアドレス		

お申込書にご記入いただきました個人情報は、ご注文の書籍の発送およびご連絡のみに使用します。

東南アジアを本格的に学ぶ方への
新しい羅針盤!

慶應義塾大学出版会

慶應義塾大学出版会

〒108-8346 東京都港区三田2-19-30 TEL 03-3451-3584 / FAX 03-3451-3122 <http://www.keio-up.co.jp/>

シリーズ刊行にあたって(一部抜粋)

本シリーズでは、これまでとは異なる視点から東南アジア地域研究を紹介する。すなわち、東南アジア地域研究の見取り図の提示である。いかなる研究も、現実の政治・社会・経済状況や構造、学問領域での時々の支配的なあるいは流行の理論から自由ではない。特定の時代に生まれた研究は時代的な拘束を受ける。このような当たり前の研究の軌跡を位置づけることで、現在の研究がいかに現在のであり、先進的あるいは独創的であるかもわかる。

研究の軌跡を理解することは、その延長線上にある今後の研究の手引きにもなる。編者は環境、社会、政治の領域における研究の第一人者であり、執筆者はそれぞれのテーマにおける最前線の研究者である。限られた紙面ではあるが、主要な研究動向がまとめられており、今後の見通しについてのヒントがちりばめられている。本シリーズを手にすることで、卒業論文のテーマに苦慮している学部専門課程の学生、東南アジア地域研究を極めようと志している大学院生、東南アジア地域研究の現状と行方に関心をもつ社会人やメディア関係者には、東南アジア地域研究の糸口をひもといていただきたい。それが本シリーズを企画したねらいである。

山本信人(慶應義塾大学教授)

推薦のことば

末廣 昭(学習院大学教授、東京大学名誉教授)

地域研究は、経済学や政治学のようにディシプリンが確立した学問ではない。地域研究は他者を理解するためのツールであり、旺盛な好奇心、しなやかな心、フィールド調査を支える体力が何より重要となる。だから、さまざまな切り口があってよいし、『百科全書』のように無駄に見える知識も必要だ。そんなわくわくするようなシリーズが刊行された。東南アジアを国別に、そして時代を追って記述するのではなく、環境、社会、政治について、47名の執筆者が、独自の視点、斬新な概念を使って縦横に論じる。通常の入門書ではない。現代世界を理解するためのアイデアが詰まった新企画のシリーズである。



A5判並製356頁
ISBN978-4-7664-2395-2
本体価格3,600円

〈社会のなかの「生」を問う〉

宮原 暁(大阪大学グローバルイニシアティブ・センター教授) [編著]

行為やモノ、思考や言語をやりとりする際の交換やコミュニケーションのあり方が交錯する東南アジア。人々が生きる日常、そして「社会」の根底にある構造を、「あいだ」という視点から人類学的に問い直し、その多様性の淵源を描き出す。

序章 東南アジア 織り重なる社会の読み方(宮原 暁)

第1部 「社会」のかたち

- 1章 国家のだまし絵——中国人ムスリム移民が反転する国家像(木村 自)
- 2章 重なり合う村落と都市(小林 知)
- 3章 移動の伝統(長坂 格)

第2部 生を問う

- 4章 双方制と親縁性の文化(島藺洋介)
- 5章 結婚と家族の多様性と変容(小池 誠)
- 6章 人(信田敏宏)
- 7章 表象としての「女性」(横田祥子・原めぐみ)
- 8章 高齢者像の変貌——インドネシアの事例を中心に(伊藤 眞)

第3部 「あいだ」の世界

- 9章 商いの文化(市川 哲)
- 10章 東南アジア社会における紛争・暴力とその処理(床呂郁哉)
- 11章 消費社会(新井健一郎)
- 12章 「遊び」の領域(尾上智子)

第4部 宗教の現在

- 13章 信仰の軸線——東南アジアにおいて「宗教を信じる」とは何を意味するか(片岡 樹)
- 14章 世俗と宗教——タイのムスリム社会を事例に(小河久志)
- 15章 宗教の現代的想像力——フィリピンのカトリシズムから(東賢太郎)

〈人間と自然生態系の関係をさぐる〉

井上 真(早稲田大学人間科学学術院教授
前東京大学大学院農学生命科学研究科教授) [編著]

多様な生態系を含む東南アジアの地域社会の変容は、西洋的な単線発展モデルよりも人間と自然生態系との相互作用による地域固有の発展として理解することがふさわしい。本書では、生態史を概観し、人間と自然生態系の関係である「生業」に着目するとともに、近年の重要な論点や現代トピックを整理し、将来の課題を展望する。

序章 東南アジア「環境」の地域研究——学際性と実践性(井上 真)

第1部 生態史で地域を理解する

- 1章 東南アジア大陸部の生態史(柳澤雅之)
- 2章 東南アジア島嶼部の生態史(古澤拓郎)

第2部 生業から地域の将来像を描く

- 3章 人類を支えてきた狩猟採集(小泉 都)
- 4章 新たな価値付けが求められる焼畑(横山 智)
- 5章 転換期を迎えた水田稲作(岡本郁子)
- 6章 終焉なきフロンティアとしての漁業(赤嶺 淳)

第3部 概念・視点で地域を斬り将来への課題を知る

- 7章 「くくり」と「出入り」の脱国家論——京都学派とソミア論の越境対話(佐藤 仁)
 - 8章 政策論と権利論が交錯するcommons論(藤田 渡)
 - 9章 「隠れた物語」を掘り起こすポリティカルエコロジーの視角(笹岡正俊)
 - 10章 「緑」と「茶色」のエコロジーの近代化論——資源産業における争点と変革プロセス(生方史数)
- コラム インドネシア中部ジャワにおける実証的レジリエンス研究に向けて(内藤大輔)

第4部 現代的トピックから今後の課題を展望する

- 11章 森林保全のための国際メカニズム——REDDプラスによる新たな動き(百村帝彦)
- 12章 認証制度を通じた市場メカニズム(原田一宏)
- 13章 農園農業——マレーシアとインドネシアのゴム農園とアブラヤシ農園(寺内大左)
- 14章 災害対応の地域研究(山本博之)



A5判並製368頁
ISBN978-4-7664-2394-5
本体価格3,600円



A5判並製344頁
ISBN978-4-7664-2396-9
本体価格3,600円

〈独特の政治動態をとらえる〉

山本信人(慶應義塾大学法学部教授) [編著]

「アジアの冷戦」とともにアメリカで発展した政策指向型の東南アジア研究と、諸国家の多様性や国際／地域フェーズの政治力学にも射程を広げてきた日本型の地域研究。両者の再検討と止揚から新たな分析枠組みを提示し、東南アジア地域独自の政治動態を描き出す。

序章 東南アジア政治の魅力(山本信人)

第1部 時空を超える地域

- 1章 時間(太田 淳)
- 2章 空間(大庭三枝)
- 3章 境域(長津一史)

第2部 国民国家からみる地域

- 4章 政治変動(鈴木絢女)
- 5章 統治(高木佑輔)
- 6章 政治と軍(中西嘉宏)
- 7章 政治経済(岡本正明)
- 8章 地方(永井史男)

第3部 連携する地域

- 9章 地域機構(鈴木早苗)
- 10章 非伝統的安全保障(本名 純)
- 11章 市民社会(五十嵐誠一)

第4部 越境する地域

- 12章 宗教(見市 建)
- 13章 紛争(山田 満)
- 14章 移行期正義(土佐弘之)